

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2274200639		
法人名	有限会社 エムサービス		
事業所名	グループホーム やよい苑 (2ユニット合同)		
所在地	静岡県静岡市駿河区登呂4丁目27-29		
自己評価作成日	平成27年11月26日	評価結果市町村受理日	平成28年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JivgoVoCd=2274200639-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JivgoVoCd=2274200639-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年12月14日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・登呂遺跡公園に隣接した、環境によく地域資源に非常に恵まれたグループホームです。</li> <li>・職員教育に力を入れ、資格取得や研修等にてスキルアップを図り地域に貢献できるグループホームを目指しています。</li> <li>・ご家族との連携を深める為に年に1度、御家族・御利用者・町内会・職員の合同親睦会を行っています。</li> <li>・利用者への支援として外出の機会を多くしています。</li> <li>・気持ちにゆとりのあるグループホームを目指しています。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>家族アンケートには「安心できる」「頼みやすい」と安堵が重なり、さらに「代表の夫妻が職員の自主性を尊重し相互に信頼しあって運営している様子が見受けられ安心して預けている」との言葉を裏付けるように職員の定着率が高いことが特長の事業所です。さらに新事業として信頼関係構築のため職員、家族ともに個別面談を始めています。継続の取組みとしては本年もレクリエーション・インストラクターの認定コースに職員が出向き、管理者も目を見張るほど新しい風を運んでいます。得意不得意があるものの「レクを介して利用者の喜ぶ顔や反応を通じて洞察力や観察力が身に付けばよい」として来期は有資格者が4名となる予定です。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社員証に記載及び施設内掲示にて理念の共有を図っています。又、会議等にて理念の基本を話しています。	玄関に掲示され入職時にも説明をおこなってはいますが、唱和やテストはありません。覚えることよりも「意味を考え、感じてほしい」として、家族面談や老人会(楽寿会)との交流を実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営会議、地域行事参加及び登呂公園散策等により、地域との交流を図りながら、地域との関係を深めています。	散歩では挨拶が日常的となり、登呂祭りに合わせて事業所駐車場で繰り広げる野菜販売は利用者が売り子として活躍しています。恒例となり、近年では開店前に並ぶほどの盛況ぶりです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議を中心として情報発信をしています。又、楽寿会(老人会)との意見交換も行い、認知症、介護の考え方を発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議にて地域情報を得たり、利用者の状況を説明し、サービスの向上に繋げています。地域の民生委員、地域包括の職員からのアドバイスを頂いています。	地域包括支援センター職員、民生委員、楽寿会、家族代表の顔合わせで隔月開催できています。地域課題の合議だけでなく、楽寿会の演芸や認知症をテーマにした勉強会、門松作りをおこない親和を深めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議を通して地域包括の方と連携をとる事により、市との連携を図っています。その他必要時、介護保険課等との連絡を取り、業務遂行を行っている。生活支援課との交流が多くなってきています。	市役所の出席は得られていませんが、地域包括支援センターからは運営推進会議だけでなく地域の困りごと相談にも応じてもらえ助けられています。生活保護受給者もいるため窓口への訪問が毎月あります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の講習及び身体拘束ゼロの手引き等を利用し身体拘束しないケアに取り組んでいます。	玄関施錠はありませんがユニット入口は自動ロックが設けられています。年間教育に位置付けるとともに、帰宅願望の声には「安心となる言葉がけ」を探り職員間で共有しています。また月の半分は規定プラス1名と余裕をもった配置で、ストレスケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の講習内容を職員に情報提供する事により虐待防止の徹底を図る。個別面接等も行いながら、職員のメンタルケアを合わせて行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見人制度について講習内容を職員に情報提供する事により周知し、運営会議等にて現状の話し合いを行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当者を定め実行をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時及び運営会時に意見を聞き、運営に反映させています。	全家族を対象として個別面談をおこなっています。現状報告、要望の検討とリスクへの理解、緊急時の対応等、面会では確認できない事柄も話し合える有意義な時間となり、継続事業としていきたいとしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議、ユニット会議にて意見提案を聞き、運営に反映させています。その他意見箱及び個別面接にて意見の収集を図り反映をさせています。	名前を伏せて問い合わせできる外部の苦情受付窓口が設置され、個人面談も施行されています。また管理者、事務長、リーダー、サブリーダーは男女半々で構成され、その人が話しやすい人を選ぶことができます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に意識を持って職場の環境整備に努めています。且つ資格取得に資格給及び援助を行い意識の向上を図っています。また個別面接を通して個々の希望も配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得等の援助及びユニット会議等にて社内教育を行い職員教育に取り組んでいます。また個別面談を通して個々の希望も配慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修及び地域グループホーム協議会を通じて勉強の機会を設け、サービス向上の取り組みを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では、専属の担当者を通して、信頼関係を築き安心確保に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階では、専属の担当者及び各リーダー・サブ・担当者を通して、信頼関係を築き要望に耳を傾けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者を定め、必要な支援の見極め、対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症介護の基本及びグループホームの持つ役割を教育し、利用者との関係を構築しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営会等を通して、ご家族と一緒に支えあう事を説明し、ご家族からはアンケートを利用し意見を頂きながら関係を築いています。スタッフの思いや本人の思いもケアプラン説明時に家族に話し支え合う関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と協力し支援を行っています。	近親者だけでなく職場の仲間も訪れ、家族とは墓参や外食、旅行に出る利用者もいます。「最近来ないね」と心配の言葉がこぼれたときには会いに来てもらえるよう電話を入れたり、年賀状などのお手紙支援もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のそれぞれの状況を把握し利用者同士が関わられるように努めています。難しい方には職員にて対応し孤立しない様配慮をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転移先等にも伺い関係を持続するようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニット会議やケアプランを活用し思いや意向の把握に努めています。	伝えたい思いがあってもうまく表現できなくなっている人もいるため、入浴や化粧品、外出における本人のこだわりを掴んだときは出来る限り副うよう努め、本人の言葉に耳を傾けることを旨としています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期段階は、責任担当者により聞き取りを行い(アセスメントシート)その後、利用者担当及びユニット会議等にて把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議やケアプランを活用し暮らしの現状を把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当ケアマネジャー及びスタッフより利用者もしくは、ご家族の声を聞きユニット会議にてスタッフの意見等の内容を検討し、介護計画及びモニタリングを実施しています。	計画作成担当者2名、介護支援専門員2名と潤沢な構成により、『本人の言葉から淋しい気持ちを紐解き、キーパーソンや心療内科医師との連携が盛り込まれたプラン』が実現していることを一例として確認しました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報記録を基にユニット会議にて利用者の状況を把握し職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフの配置に考慮し柔軟に対応する状況を構築しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	登呂公園や地域の人達とのふれ合いにより支援をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族の希望を基本とし受診援助を行っている。それ以外の利用者も当苑協力医院の往診を受け、安心した支援を行うよう努めています。	週2回往診がある協力医に大半が変更しています。専門科受診は基本的には家族にお願いしていますが、難しい場合は職員が付き添っています。結果については大きな変化がなければ面会時や手紙で報告しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ナースステーションの看護師と当苑職員の看護師と協働し行っています。その他かかりつけ医の看護師、地域包括の看護師との意見も頂きながら支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係医療機関を通して行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時重要事項説明書にて内容説明をし、実際に重度化した時、担当者より再度具体的に説明を行い支援に努めています。基本的に利用者御家族と協力して行う事を原則としています。	「看取りは家族協力、職員の受容なしには～」との考えをもち、家族面接で合意形成に取り組んでいます。週に数回訪問看護の来所と24時間オンコールが可能となり、非常勤の看護師と併せ複数の視点から状態変化を把握できている点は心強いものがあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練等の実施等にて、実践力を身に着けるよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練等の実施等にて実践力を身に着けるよう努めています。	法定訓練には防災機器業者の説明も加わり、各種点検及び装置操作のほか登呂公園への避難、人員点呼を実施しています。また備蓄については食品入替も兼ね、試食会をおこなっています。	次の3点を期待します。①消防署の立ち会いにより動線等に係る適切な助言を得る ②大規模災害における家族との安否確認方法などの整備 ③地域の訓練への参加

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアル及びユニット会議、にて教育を行っています。	外交員だった、農業を営んできた…と、家族構成や生活歴からその人を知ることにより力を入れており、日々の関わりを通じて現場職員は利用者の気持ちをよく捉え、工夫できていると管理者は感じています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	マニュアル及びユニット会議にて教育を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	マニュアル及びユニット会議にて教育を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理解し支援に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備等のできる利用者にはお願いし、食事を一緒に楽しめるよう支援に努めています。	職員が献立作成し、火・金を買出しの日と決め手作りで提供されています。イベントにはお弁当を注文、梅見・紅葉での外食、誕生日の個別外食、年1回開催の合同親睦会でのパーティー形式の食事と、多様です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	関係医療機関、御家族等と連携し支援に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の能力に応じ対応し又定期的な歯科往診を実施し口腔ケアに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	理解し支援しています。	トイレに立つ回数が少なくパッドの使用枚数が増えた人には思い切って綿パンツに替え、「失敗してはいけない」という意識を高めて自発的にトイレに行くよう仕向けたこともあり、ケースバイケースの創案がみられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	関係医療機関と連携をとり、便秘予防の対応を行っています。その他散歩も積極的に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望をとり入れての入浴を心がけています。	週に2~3回を清潔保持のためやすとしています。個人毎に入れ替えてはいますが、温泉気分でかけ流しを愉しんでいる人もいます。事業所としても十分なコミュニケーションがもてる貴重な時間と位置付けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	理解し支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関との連携にて服薬支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	理解し支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅の利用、登呂公園等配慮し支援しています。	登呂公園を散歩コースとし、火・金の買い物のほか真富士の里、清水ドリームプラザ等月に一度のペースで外出しています。自ら選んだ洋服で背筋を伸ばして食事する姿を大事にしたいと考え、総勢80名が集うグランシップでの合同親睦会は今後も続ける考えです。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に理解を求め支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族等に予め確認をとらせて頂き支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	理解し努力しています。	ポインセチアとイルミネーション、ツリーやリースで華やぎ、季節感を重視したデコレーションが得意なことが覗えます。一方、トラブル防止のためパーテーションで視界を遮り個人空間を整える人もいます。冬季は加湿器を常備し、毎日のモップがけによって清潔です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	理解し努力しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族の協力を頂きながら努力しています。	手紙がたくさん入れられたウォールポケット、プレゼントの似顔絵が壁に貼られた居室もあります。花の好きな人には職員が家宅から持ち寄って飾ったり、寒がりと聞けばこたつを準備したりと個々の好みが反映されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理解し努力しています。		